

米奥小だより

令和8年6月26日（金）

No. 13

米奥小学校 校長 北添 忠

○音読集会

6月に、それぞれのクラスが音読集会で発表をしました。これは、声を出して読む力や発表する力、そして、感じたことを言葉で表現する力を伸ばす目的で行っています。各学級が1学期と2学期に1回ずつ発表します。6月3日（水）は2.3年の発表で、「風のゆうびん屋さん」と「すいせんの



ラッパ」を音読しました。6月10日（水）は1年の発表で「あひるのあくび」と「あめですよ」を暗唱しました。6月24日（水）は5.6年の発表で、わかあゆ学級はMILKの曲をダンスを交えて歌い、5.6年生は「大きな声で、様子が伝わるように音読する」をめあてとして「一つの花」を発表しました。

表現力を伸ばすという視点で見ると、抑揚をつけて読むことが大切になります。それ以外にも、小道具を使ったり、演技を加えたりします。1年生は暗唱の内容に合わせて傘を使いました。2.3年生は登場人物に合わせてかぶりものや首かけプラカードを用意していました。5.6年生は音読に合わせて演技を入れ、内容が伝わるように工夫していました。



この音読集会は2学期にも実施予定です。各学年、きっと今回よりも表現豊かな発表をしてくれると思います。

○校内授業研

各学級の担任が年間1回ずつ授業を公開し、他の先生が見て協議し、授業力を高め合う校内授業研の1回目が行われました。今回は高知県教育委員会中部教育事務所から算数担当の指導主事を招き、授業を見てもらいました。授業の内容は、5年生が「少数の倍」、6年生が「分数の倍」ということで、数直線を活用しながら、少数や分数の扱いを習得する学習でした。

5.6年教室に全教員が集まっている間、他のクラスは教室や図書室等で自習です。担任が時々様子を見に行きますが、各クラスとも指示された課題に静かに取り組んでいます。

公開授業終了後は、授業の流し方や声掛け、児童の反応などについて教員間で意見交換し、その後、指導主事の先生からアドバイスをいただきました。

複式授業の優れているところは、児童が担任から離れて、自分たちだけで授業を進める時間が必ずあることです。時代の流れとともに、求

められる能力は変化しています。子どもたちが大人になったとき必要な力として、「知識」よりも「課題解決能力」だと言われるようになってきています。教科書に書かれていることを理解するだけではなく、理解するまでの過程を大切にし、身に付けていく授業が求められています。これからも校内研などを通して、教員の授業力を高めていきます。

